

## レディーミクストコンクリート配合計画書

No. \_\_\_\_\_

(有)エイブル 生コン工場 殿

2025 年 4 月 1 日

有限会社 エイブル 生コン工場

広島県三次市高杉町1470番地の3

TEL:0824-66-2234 FAX:0824-66-2909

配合計画者：片山 一夫

工 事 名 称	自社
所 在 地	三次市四拾貫町 地内
納 入 予 定 時 期	
本 配 合 の 適 用 期 間	標準配合 4月1日～6月20日 9月11日～11月20日 (標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

## 配 合 の 設 計 条 件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ <sup>°</sup> 又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
		普通	27	12	20
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	— kg/m <sup>3</sup>
	舗装コンクリートの強度試験方法	—		コンクリートの温度	最高・最低 — °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限	— %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	— kg/m <sup>3</sup>
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	— kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢	28 日		流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	— cm
	空気量	4.5±1.5 %			

## 使 用 材 料

セメント	生産者名	UBE三菱セメント株式会社			密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> Oeq %	—		
混和材	製品名	—	種類	—	密度 g/cm <sup>3</sup>	—	Na <sub>2</sub> Oeq %	—		
骨材	No.	種 類	産地又は品名	アルカリ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm <sup>3</sup>		微粒分量の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	加工砂	島根県仁多郡奥出雲町	A	化学法	5mm以下	2.65	2.57	2.58	3.0以下
	②	砕砂	鳥取県日野郡日野町	A	化学法	5mm以下	2.80	2.64	2.66	3.0±2.0
	③	—	—	—	—	—	—	—	—	—
粗骨材	①	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	20～10mm	6.9	—	2.64	0.5±0.5
	②	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	13～5mm	6.1	—	2.63	0.5±0.5
	③	—	—	—	—	—	—	—	—	—
混和剤①	製品名	フローリックSV10L		種 類	A E 減水剤		Na <sub>2</sub> Oeq %		1.0	
混和剤②		—			—		—		—	
細骨材の塩化物量	①	0.00 %	②	— %	水の種類	上澄み水		目標スラッジ固形分率	—	
回収骨材の使用法	細骨材	—		粗骨材	—		スラッジ水の使用法		—	

配 合 表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
340		177	488	335		649	278		3.40	
水セメント比		52.0 %		水結合材比		%		細骨材率		47.3 %

## 備考

骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。

# レディーミクストコンクリート配合計算書

## 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ 又はスランプ フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB
変動係数	V	当工場の実績により			10 %
割増係数	α	$\alpha 1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \times V}{100}} = 1.22 \quad \alpha 2 = \frac{1}{1 - \frac{3.0 \times V}{100 \sqrt{3.0}}} = 1.21$ $\alpha 3 = \frac{1.0}{1 - \frac{2.0 \times V}{100}} = 1.25$			$\alpha 1 = 1.22$ $\alpha 2 = 1.21$ $\alpha 3 = 1.25$ $\alpha = 1.25$
配合強度	m	m = α × SL = 1.25 × 27 = 33.8			33.8 N/mm <sup>2</sup>
水セメント比	W/C	$m = a + b \times C/W = -13.40 + 24.70 \times C/W$ $W/C = \frac{b}{m - a} = \frac{24.70}{33.8 + 13.40} \times 100 = 52.3$			52.0 %
単位水量	W	当工場の実績により			177 kg/m <sup>3</sup>
単位セメント量	C	C = $\frac{W}{W/C} \times 100 = \frac{177}{52.0} \times 100 = 340$			340 kg/m <sup>3</sup>
	C <sub>v</sub>	C <sub>v</sub> = C ÷ 密度 = 340 ÷ 3.04 = 112			112 ℓ/m <sup>3</sup>
空気量	A	A = 設計容積 × 空気量(%) = 1000 × 4.5(%) = 45			45 ℓ/m <sup>3</sup>
骨材の絶対容積	V <sub>a</sub>	V <sub>a</sub> = 設計容積 - (W + C <sub>v</sub> + A) = 1000 - (177 + 112 + 45) = 666			666 ℓ/m <sup>3</sup>
細骨材率	s/a	当工場の実績により			47.3 %
単位細骨材量	S <sub>v</sub>	S <sub>v</sub> = V <sub>a</sub> × s/a (%) = 666 × 47.3(%) = 315			315 ℓ/m <sup>3</sup>
	S <sub>v1</sub>	① S <sub>v1</sub> = S <sub>v</sub> × 60(%) = 189			189 ℓ/m <sup>3</sup>
	S <sub>v2</sub>	② S <sub>v2</sub> = S <sub>v</sub> × 40(%) = 126			126 ℓ/m <sup>3</sup>
	S <sub>1</sub> S <sub>2</sub>	① S <sub>1</sub> = S <sub>v1</sub> × 密度(2.58) = 488 ② S <sub>2</sub> = S <sub>v2</sub> × 密度(2.66) = 335			488 kg/m <sup>3</sup> 335 kg/m <sup>3</sup>
単位粗骨材量	G <sub>v</sub>	G <sub>v</sub> = V <sub>a</sub> - S <sub>v</sub> = 666 - 315 = 351			351 ℓ/m <sup>3</sup>
	G	G = G <sub>v</sub> × 密度(2.64) = 927			927 kg/m <sup>3</sup>
	G <sub>1</sub>	① G <sub>1</sub> = G × 70(%) = 649			649 kg/m <sup>3</sup>
	G <sub>2</sub>	② G <sub>2</sub> = G × 30(%) = 278			278 kg/m <sup>3</sup>
単位混和剤量	AE	AE = C × 添加率(%) = 340 × 1.00(%) = 3.40			3.40 kg/m <sup>3</sup>

## 配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
340		177	488	335		649	278		3.40	
水セメント比		52.0 %	水結合材比			% 細骨材率		47.3 %		

備考

## レディーミクストコンクリート配合計画書

No. \_\_\_\_\_

(有)エイブル 生コン工場 殿

2025 年 4 月 1 日

有限会社 エイブル 生コン工場

広島県三次市高杉町1470番地の3

TEL:0824-66-2234 FAX:0824-66-2909

配合計画者：片山 一夫

工 事 名 称	自社
所 在 地	三次市四拾貫町 地内
納 入 予 定 時 期	
本 配 合 の 適 用 期 間	夏季修正標準配合 6月21日～9月10日 (修正標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

## 配 合 の 設 計 条 件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ <sup>°</sup> 又はスランプフロー <sup>cm</sup>	粗骨材の最大寸法 <sup>mm</sup>	セメントの種類による記号
		普通	27	12	20
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	— kg/m <sup>3</sup>
	舗装コンクリートの強度試験方法	—		コンクリートの温度	最高・最低 — °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限	— %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		塩化物含有量	— kg/m <sup>3</sup>
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		呼び強度を保証する材齢	— kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢	28 日		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	— kg/m <sup>3</sup>
	空気量	4.5±1.5 %		流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	— cm

## 使 用 材 料

セメント	生産者名	UBE三菱セメント株式会社			密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> Oeq %	—		
混和材	製品名	—	種類	—	密度 g/cm <sup>3</sup>	—	Na <sub>2</sub> Oeq %	—		
骨材	No.	種 類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm <sup>3</sup>		微粒分量の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	加工砂	島根県仁多郡奥出雲町	A	化学法	5mm以下	2.65	2.57	2.58	3.0以下
	②	砕砂	鳥取県日野郡日野町	A	化学法	5mm以下	2.80	2.64	2.66	3.0±2.0
	③	—	—	—	—	—	—	—	—	—
粗骨材	①	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	20～10mm	6.9	—	2.64	0.5±0.5
	②	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	13～5mm	6.1	—	2.63	0.5±0.5
	③	—	—	—	—	—	—	—	—	—
混和剤①	製品名	フローリックRV10L		種 類	A E 減水剤		Na <sub>2</sub> Oeq		0.9	
混和剤②		—			—		%		—	
細骨材の塩化物量	①	0.00 %	②	— %	水の種類	上澄み水		目標スラッジ固形分率	—	
回収骨材の使用法	細骨材	—		粗骨材	—		スラッジ水の使用法		—	

配 合 表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
340		177	488	335		649	278		4.42	
水セメント比		52.0 %		水結合材比		%		細骨材率		47.3 %

## 備考

骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。

# レディーミクストコンクリート配合計算書

## 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スラング 又はスラング フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB
変動係数	V	当工場の実績により			10 %
割増係数	α	$\alpha 1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \times V}{100}} = 1.22 \quad \alpha 2 = \frac{1}{1 - \frac{3.0 \times V}{100 \sqrt{3.0}}} = 1.21$ $\alpha 3 = \frac{1.0}{1 - \frac{2.0 \times V}{100}} = 1.25$			$\alpha 1 = 1.22$ $\alpha 2 = 1.21$ $\alpha 3 = 1.25$ $\alpha = 1.25$
配合強度	m	m = α × SL = 1.25 × 27 = 33.8			33.8 N/mm <sup>2</sup>
水セメント比	W/C	$m = a + b \times C/W = -13.40 + 24.70 \times C/W$ $W/C = \frac{b}{m - a} = \frac{24.70}{33.8 + 13.40} \times 100 = 52.3$			52.0 %
単位水量	W	当工場の実績により			177 kg/m <sup>3</sup>
単位セメント量	C	C = $\frac{W}{W/C} \times 100 = \frac{177}{52.0} \times 100 = 340$			340 kg/m <sup>3</sup>
	C <sub>v</sub>	C <sub>v</sub> = C ÷ 密度 = 340 ÷ 3.04 = 112			112 ℓ/m <sup>3</sup>
空気量	A	A = 設計容積 × 空気量(%) = 1000 × 4.5(%) = 45			45 ℓ/m <sup>3</sup>
骨材の絶対容積	V <sub>a</sub>	V <sub>a</sub> = 設計容積 - (W + C <sub>v</sub> + A) = 1000 - (177 + 112 + 45) = 666			666 ℓ/m <sup>3</sup>
細骨材率	s/a	当工場の実績により			47.3 %
単位細骨材量	S <sub>v</sub>	S <sub>v</sub> = V <sub>a</sub> × s/a (%) = 666 × 47.3(%) = 315			315 ℓ/m <sup>3</sup>
	S <sub>v1</sub>	① S <sub>v1</sub> = S <sub>v</sub> × 60(%) = 189			189 ℓ/m <sup>3</sup>
	S <sub>v2</sub>	② S <sub>v2</sub> = S <sub>v</sub> × 40(%) = 126			126 ℓ/m <sup>3</sup>
	S <sub>1</sub> S <sub>2</sub>	① S <sub>1</sub> = S <sub>v1</sub> × 密度(2.58) = 488 ② S <sub>2</sub> = S <sub>v2</sub> × 密度(2.66) = 335			488 kg/m <sup>3</sup> 335 kg/m <sup>3</sup>
単位粗骨材量	G <sub>v</sub>	G <sub>v</sub> = V <sub>a</sub> - S <sub>v</sub> = 666 - 315 = 351			351 ℓ/m <sup>3</sup>
	G	G = G <sub>v</sub> × 密度(2.64) = 927			927 kg/m <sup>3</sup>
	G <sub>1</sub>	① G <sub>1</sub> = G × 70(%) = 649			649 kg/m <sup>3</sup>
	G <sub>2</sub>	② G <sub>2</sub> = G × 30(%) = 278			278 kg/m <sup>3</sup>
単位混和剤量	A E	A E = C × 添加率(%) = 340 × 1.30(%) = 4.42			4.42 kg/m <sup>3</sup>

## 配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
340		177	488	335		649	278		4.42	
水セメント比		52.0 %	水結合材比			%		細骨材率		47.3 %

備考

## レディーミクストコンクリート配合計画書

No. \_\_\_\_\_

(有)エイブル 生コン工場 殿

2025 年 4 月 1 日

有限会社 エイブル 生コン工場

広島県三次市高杉町1470番地の3

TEL:0824-66-2234 FAX:0824-66-2909

配合計画者：片山 一夫

工事名称	自社
所在地	三次市四拾貫町 地内
納入予定時期	
本配合の適用期間	冬季修正標準配合 11月21日～3月31日 (修正標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

## 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ <sup>°</sup> 又はスランプフロー <sup>cm</sup>	粗骨材の最大寸法 <sup>mm</sup>	セメントの種類による記号
		普通	27	12	20
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	— kg/m <sup>3</sup>
	舗装コンクリートの強度試験方法	—		コンクリートの温度	最高・最低 — °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限	— %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	— kg/m <sup>3</sup>
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	— kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢	28 日		流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	— cm
	空気量	4.5±1.5 %			

## 使用材料

セメント	生産者名	UBE三菱セメント株式会社			密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> Oeq %	—		
混和材	製品名	—	種類	—	密度 g/cm <sup>3</sup>	—	Na <sub>2</sub> Oeq %	—		
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm <sup>3</sup>		微粒分量の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	加工砂	島根県仁多郡奥出雲町	A	化学法	5mm以下	2.65	2.57	2.58	3.0以下
	②	砕砂	鳥取県日野郡日野町	A	化学法	5mm以下	2.80	2.64	2.66	3.0±2.0
	③	—	—	—	—	—	—	—	—	—
粗骨材	①	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	20～10mm	6.9	—	2.64	0.5±0.5
	②	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	13～5mm	6.1	—	2.63	0.5±0.5
	③	—	—	—	—	—	—	—	—	—
混和剤①	製品名	フローリックSV10L		種類	AE減水剤		Na <sub>2</sub> Oeq %		1.0	
混和剤②		—			—		—		—	
細骨材の塩化物量	①	0.00 %	②	— %	水の種類	上澄み水		目標スラッジ固形分率	—	
回収骨材の使用法	細骨材	—		粗骨材	—		スラッジ水の使用法		—	

配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
340		177	488	335		649	278		2.72	
水セメント比		52.0 %		水結合材比		%		細骨材率		47.3 %

## 備考

骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。

# レディーミクストコンクリート配合計算書

## 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スラング 又はスラング フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB
変動係数	V	当工場の実績により			10 %
割増係数	$\alpha$	$\alpha 1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \times V}{100}} = 1.22$ $\alpha 2 = \frac{1}{1 - \frac{3.0 \times V}{100 \sqrt{3.0}}} = 1.21$ $\alpha 3 = \frac{1.0}{1 - \frac{2.0 \times V}{100}} = 1.25$			$\alpha 1 = 1.22$ $\alpha 2 = 1.21$ $\alpha 3 = 1.25$ $\alpha = 1.25$
配合強度	m	$m = \alpha \times SL = 1.25 \times 27 = 33.8$			33.8 N/mm <sup>2</sup>
水セメント比	W/C	$m = a + b \times C/W = -13.40 + 24.70 \times C/W$ $W/C = \frac{b}{m - a} = \frac{24.70}{33.8 + 13.40} \times 100 = 52.3$			52.0 %
単位水量	W	当工場の実績により			177 kg/m <sup>3</sup>
単位セメント量	C	$C = \frac{W}{W/C} \times 100 = \frac{177}{52.0} \times 100 = 340$			340 kg/m <sup>3</sup>
	C <sub>v</sub>	$C_v = C \div \text{密度} = 340 \div 3.04 = 112$			112 ℓ/m <sup>3</sup>
空気量	A	$A = \text{設計容積} \times \text{空気量}(\%) = 1000 \times 4.5(\%) = 45$			45 ℓ/m <sup>3</sup>
骨材の絶対容積	V <sub>a</sub>	$V_a = \text{設計容積} - (W + C_v + A) = 1000 - (177 + 112 + 45) = 666$			666 ℓ/m <sup>3</sup>
細骨材率	s/a	当工場の実績により			47.3 %
単位細骨材量	S <sub>v</sub>	$S_v = V_a \times s/a(\%) = 666 \times 47.3(\%) = 315$			315 ℓ/m <sup>3</sup>
	S <sub>v1</sub>	① $S_{v1} = S_v \times 60(\%) = 189$			189 ℓ/m <sup>3</sup>
	S <sub>v2</sub>	② $S_{v2} = S_v \times 40(\%) = 126$			126 ℓ/m <sup>3</sup>
	S <sub>1</sub> S <sub>2</sub>	① $S_1 = S_{v1} \times \text{密度}(2.58) = 488$ ② $S_2 = S_{v2} \times \text{密度}(2.66) = 335$			488 kg/m <sup>3</sup> 335 kg/m <sup>3</sup>
単位粗骨材量	G <sub>v</sub>	$G_v = V_a - S_v = 666 - 315 = 351$			351 ℓ/m <sup>3</sup>
	G	$G = G_v \times \text{密度}(2.64) = 927$			927 kg/m <sup>3</sup>
	G <sub>1</sub>	① $G_1 = G \times 70(\%) = 649$			649 kg/m <sup>3</sup>
	G <sub>2</sub>	② $G_2 = G \times 30(\%) = 278$			278 kg/m <sup>3</sup>
単位混和剤量	AE	$AE = C \times \text{添加率}(\%) = 340 \times 0.80(\%) = 2.72$			2.72 kg/m <sup>3</sup>

## 配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
340		177	488	335		649	278		2.72	
水セメント比		52.0 %	水結合材比			% 細骨材率		47.3 %		

備考